

## 方向を示す移動動詞の文法化：ベトナム語の「来る」動詞の場合

著者	村上 雄太郎(レー・バン・クー)
雑誌名	神戸市外国語大学外国学研究
巻	64
ページ	1-15
発行年	2006-03-31
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1085/00000630/">http://id.nii.ac.jp/1085/00000630/</a>



# 方向を示す移動動詞の文法化

—— ベトナム語の「来る」動詞の場合 ——

村上 雄太郎 (レー・バン・クー)

## 1. はじめに

ここで言う「方向を示す移動動詞」とは、以下のような例に示される動詞のことである。

(1) Nó ra vườn.  
彼 出る 庭  
(彼は庭に出た。)

(2) Nó vào nhà.  
入る 家  
(彼は家に入った。)

(3) Nó lên tầng ba.  
上る 階 三  
(彼は3階に上った。)

(4) Nó xuống tầng hai.  
下りる 二  
(彼は2階に下りた。)

(5) Nó đi Pháp.  
行く フランス  
(彼はフランスに行った。)

- (6) *Lại đây với anh.*  
来る ここ と 私 (兄)  
(ここへ来なさい。)
- (7) *Xe-điện đến Ueno lúc hai-giờ.*  
電車 着く 上野 に 2時  
(電車は、2時に上野に到着した。)
- (8) *Nó sang bờ bên-kia.*  
渡る 岸 向こう  
(彼は向こう岸に渡った。)
- (9) *Nó qua cầu.*  
渡る 橋  
(彼は橋を渡った。)
- (10) *Nó về nhà.*  
帰る 家  
(彼は家に帰った。)

これらの動詞は、単独でも使えるし、他の移動動詞の後に付いて、その移動の方向を示す成分として使うこともできる。例えば、

- (11) *Nó chạy ra.*  
走る 出る  
(彼は駆け出た。)
- (12) *Nó chạy vào.*  
入る  
(彼は駆け込んだ。)

- (13) Nó háp-táp chạy lại. (GH)  
 あたふたと 駆ける  
 (彼はあたふたと駆け寄ってきた。) (花)

このうち、ra (出る), đi (行く), lên (上がる), lại (来る) は、形容詞の後に置かれ、アスペクト形式として働く場合もある。例えば、

- (14) Cô-ta ngày-càng đẹp ra.<sup>1</sup>  
 彼女 日増しに きれいだ  
 (彼女は、日増しにきれいになってきている。)

- (15) Đạo-này nó gầy đi nhiều.  
 このごろ 彼 瘦せる たくさん  
 (このごろ、彼は随分痩せてしまった。)

- (16) Những căn nhà lùì-xa, bé dần lại.  
 (複) (類) 家 遠ざかる 小さい だんだん  
 (人家などが遠くに去り、だんだん小さくなった。)

特に、lại (来る) は、他の動詞や形容詞の後ろにだけでなく、他の動詞の前にも使われる。また、節と節との接続形式を形成するのにも使われるし、感情・態度の表出形式としても使われる。例えば、(16)のような用法にある lại は、事物の変化過程の <圧縮/縮小> という方向を表し、また、(17)のような用法では、「再び」を表す。さらに、(18)では、<完了> を表す đã と組み合わさって、「(道に迷っ) た上に、(雨に降られ) た」という追加の意味を表す、節と節との接続形式として働く。(19)や(20)では、物事の生起が話し手にとって予想外だということを表す感情・態度の表出形式として働く。

1 例文中、ベトナム語の単語をイタリックにするのは強調するためである。また、日本語のグロスとベトナム語のローマ字の区切りとの対応が正確に分かりやすくなるように、一つのグロスが二つ以上の区切り、つまり二つ以上の音節に対応する場合、音節と音節との間にハイフンを使うことにする。例えば、cô-ta (彼女) のように。ベトナム語の正書法では、こういう場合には、ハイフンが使われないのが普通である。

- (17) *Nó lại đọc thư.*  
 (彼はまた手紙を読んだ)
- (18) *Đã lạc đường nó lại bị trời mưa.*  
 迷う 道 彼 (被) 天 雨  
 (彼は道に迷った上, 雨にまで降られた。)
- (19) *Không-gờ nó lại đến.*  
 まさか 彼 来る  
 (彼が来るとは思いもよらなかった。)
- (20) *Nó rất giỏi toán.*  
 彼 とても 上手だ 数学  
 (彼は数学がよくできる。)
- Con của giáo-sư toán mà-lại.*  
 子供 (所有) 教員  
 (当然だ。数学担当先生の子供だもの!)

本稿では, *lại* の意味的な特性を見据えつつ, その, 意味や機能の拡張による文法化のプロセスを考察する。具体的には, 2 節では, アスペクト形式への機能拡張を, また, 3 節では, 接続形式への機能拡張を, さらに, 4 節では, 感情・態度の表出形式への機能拡張を考察する。最後に, 6 節では, まとめと今後の展望を述べる。

## 2. *lại* のアスペクト形式への機能拡張

先ず, 単独で使われる場合, 基本的には, 動詞 *lại* は, 話者, または話者側の居る所や, 話者の範囲内にある近い所へ移動する, という「来る」に相当する意味がある。

すなわち, 話者から遠ざかる方向に移動する「行く」とは正反対である。

しかし, *lại* は「来る」の他に, 「戻る」という意味もある。例えば, Viet-

*nameese-English Dictionary* (Đặng Chân Liêu & Lê Khả Kế eds. 1987) では, lại (動詞) という見出しは, '1. Come (from a short distance) Có bạn học lại chơi đây con ạ.: A school-mate has come to see you, dear. 2. Come back, return. Tôi xin phép lại nhà.: I beg leave to return home.' とある。

ここで, 2. の意味は, 1. の意味が拡張したものだと考えられる。というのは, <話者側の, 発話現在, 居る所への移動> = <話者側の出発点 (住む所など) への移動> という捉え方が「来る」から「戻る」への拡張を動機づけているのである。また, この <話者側の出発点への移動> が <ある出発点への移動や還元> へと一般化した時に, (21)(22)(23)のような用法があり, さらに, <ある元来の状態への回帰> へと抽象化した時には, (24)のような用法がある。

(21) Nó đã gửi lại cuốn sách ấy cho tôi.  
 彼 (完了) 送る (類) 本 その へ 私  
 (彼はその本を返送してくれた。)

(22) Nó bị bạn đánh, nhưng không đánh lại.  
 被る 友人 殴る しかし (否定)  
 (彼は友達に殴られたが, 殴り返さなかった。)

(23) Nó đọc lại lá thư ấy rồi.  
 彼 読む (類) 手紙 その (完了)  
 (彼はその手紙を読み返した。)[もう一回]

(24) Mỗi-lúc cười trông anh như trẻ hẳn lại.  
 度に 笑う 見える 彼 ように 若い すっかり  
 (笑うと若々しくなる。)

一方, 「縮む」や「詰まる」など, 縮小を表す動詞の後ろに使われる場合, lại は, 「求心的」という事物の移動方向を示すと同時に, 活動の結果も明らか

にするという役割を果たす<sup>2</sup>。この「求心的な移動方向」は、形容詞の後ろに使われる次のような例にも認められる。

- (25)=(16) Những căn nhà lùì-xa, bé dần lại.  
(複) (類) 家 遠ざかる 小さい だんだん  
(人家などが遠くに去り, だんだん小さくなった。)

また, Cao Xuân Hạo (2003: 51) に従って, ベトナム語の述語を, 「動のかどうか」および「意志的かどうか」というその意味特性によって, 「動作」(hành động) を表す述語, 「出来事」(sự cố) を表す述語, 「姿勢」(tư thế) を表す述語と「状態」(trạng thái) を表す述語と分類すると, 「状態」を表す述語に後続する lại は, (24)(25)のように, 「元来の状態への還元」や「求心的な方向への変化」を表すアスペクト形式として働くということができる。

そして, 「姿勢」を表す述語に後続する lại は, (26)~(28)のように, 先へ進んで行くと予定されたある動作が打ち切られるという「停滞・終結」を表すアスペクト形式として働く。(26), (27)と(28)では, この「先へ進んで行くと予定された」動作は, それぞれ, 例えば, 「歩く」と「飛行機で乗り継ぐ」と「家へ帰る」のような動作だと言える。

Panfilov (1979: 20-23) は, (25)にあるような, 形容詞の後に付く lại は「属性の出現」を示すものだとし, dừng (立ち止まる) のような有限性のある (telic) 動詞の後に付く lại は, 「動詞の有限性の純粹形式的な表現」(biểu hiện thuần túy hình thức tính hữu giới của động từ) だと分析している。

- (26) Nó dừng lại.  
彼 止まる  
(彼は立ち止まった。)

---

2 Trần Thị Nhân (2005: 461) を参照されたい。

(27) Nó ngủ lại ở sân bay.  
寝る に 空港  
(彼は空港に寝泊りした。)

(28) Về vội làm-gì ! Ngồi lại, nói-chuyện một-lát-nữa đã.  
帰る 急ぐ ~ことはない 座る 話す もう少し とりあえず  
(早く帰ることなんてないよ！座ってもう少し話していきなさいよ。)

ここで、注目すべきは、同じく、“動作を表す述語+ lại” という統語的な環境に現れても、この述語の意味特性によって、 lại の機能も変わってくるということである。

具体的には、(21)や(22)の中の述語動詞が「ある空間的な移動を引き起こす動作や、ある作用を対象に向けて及ぼす動作」を表すのに対し、(23)の中の述語動詞は、これらの空間的・物理的な移動が含まれない動作を表すものである。この「空間的・物理的な移動が含まれない動作を表す」述語動詞に後続する lại は、反復を表すというアスペクト形式として働くのである。

要するに、空間的・物理的な移動を表さない述語、つまり、非移動性の動詞や形容詞に後続する環境にあることが、 lại のアスペクト形式への転化を動機づけているのである。

反復を表すアスペクト形式としては、特に、(29)~(31)のような“V + đi + V + lại” というペアによる表現が注目に値する。“V + ra (出る) + V + vào (入る)” や “V + lên (上がる) + V + xuống (降りる)” というペアによる表現でも、「反復」の意味が示されるが、“V + đi + V + lại” の方が、反復の意味がより強いように感じられる。これは、“ra / vào” や “lên / xuống” と比べて、“V + đi + V + lại” の方が、方向性の意味が希薄になり、かなり抽象化していることで説明できると思われる。



- (29) Nó đọc đi đọc lại lá thư ấy.  
 彼 読む (類) 手紙 その  
 (彼は、繰り返しその手紙を読んだ。) [何回も]
- (30) Anh lật đi lật lại chiếc máy trên tay.  
 彼 覆す (類) 機械 上 手  
 (彼はその機械を手のひらで表を見たり裏返してみたりした。)
- (31) Tôi nghiên-cứu đi nghiên cứu lại hồ-sơ của gã.  
 私 研究する 書類 の 奴  
 (私は、彼の経歴を一切繰り返し研究した。)

また、同じ反復を表すものであるが、動詞に後続する lại, つまり(23)のようにアスペクト形式として働く lạiがある一方、それに先行する lạiもある。先行する lạiは、ここで言うアスペクト形式ではなく、一種のモーダル動詞として働くものだと考えられる。

先行する場合、その述語によって表される事態が少なくとも、一回は、前に起こったことがあることを表し、後続する場合は、やり損なったことをもう一度行うことを表す (Văn Tân, Nguyễn Văn Đạm 1977: 452 や, Nguyễn Đình Hoà 1997: 147-149, Trần Thị Nhàn 2005: 462)。

- (32)=(17) Nó lại đọc thư.  
 彼 読む 手紙  
 (彼はまた手紙を読んだ。)

- (33)=(23) Nó đọc lại lá thư ấy rồi.  
 彼 読む (類) 手紙 その (完了)  
 (彼はその手紙を読み返した。) [もう一回]

多くの場合、“V + lại + N”は、日本語の“V-し直す”に対応すると言える

が、この対応関係については、別稿に譲る。

次に、*lại* の接続形式への機能拡張を見てみよう。

### 3. *lại* の接続形式への機能拡張

この場合、*lại* は、「～した上に、～する」という追加の意味を表す “*đã ...lại...*” という接続形式の一端を担うものである。この接続形式は、単文では、完了（已成）を表すモーダル動詞として働く *đã* に呼応して、反復を表すモーダル動詞 *lại* が使われることによるものである。例えば、(36)は、(34)に(35)が重なって出来た表現である。

(34) *Nó đã lạc đường.*  
彼（完了）迷う道  
（彼は道に迷った。）

(35) *Nó lại bị trời mưa.*  
（反復）被る 天 雨（が降る）  
（彼は、また雨に降られた。）

(36)=(18) *Đã lạc đường nó lại bị trời mưa.*  
迷う 道 彼（被）天 雨（が降る）  
（彼は道に迷った上、雨にまで降られた。）

因果関係などと違って、“*đã ...lại...*” によるこの接続関係は、「物事は通常以上に、良いまたは悪い」という話者の評価や表現意図が含まれていることから、一種の「ムード定型」を成すものだと言える。

次に、*lại* の感情・態度の表出形式への機能拡張をみてみよう。

### 4. *lại* の感情・態度の表出形式への機能拡張

この場合、*lại* を使うことによって「思いもよらない」や「意外だ」という

意味合いが含まれることになる。例えば、(37)では、「アメリカに留学している」のなら、「上手になったのは、米語だ」というのは、話者の予想するところである。従って、「上手になったのは中国語だった」ということを聞いた時に、話者にとっては、意外な出来事だということになる。

lai のこのような機能拡張を動機づけるのは、<先へ進んで行かなく、反復する>=<話者の思うように事が運ばない> という捉え方だといえる。

- (37) Nó du-học ở Mỹ, nhưng không giỏi tiếng-Mỹ mà lại giỏi  
彼 留学する に アメリカ しかし (否定) 上手だ 米語 (逆接)  
tiếng-Hoa.  
華語  
(彼はアメリカに留学しているのに、上手になったのは、米語ではなく、中国語  
だった。)

- (38) a. Không-ngờ nó lại đến.  
まさか 彼 来る  
(彼が来るとは思いもよらなかった。)
- b. Chẳng có lẽ anh-Minh lại đôn đên-thế. (GH)  
(否定) 有る 訳 ミン君 駄目になる そんなに  
(ミン君がそんなに駄目になるはずがない。)(花)
- c. Sao em đừng đọc dở lại ngưng thế? (GH)  
なぜ 君 (進行) 読む 一途中で 止める そのように  
(どうして読んでいる途中でやめてしまうの?)(花)

- (39) A: Nó rất giỏi toán.  
彼 とても 上手だ 数学  
(彼は数学がよくできる。)
- B: Con của giáo-sư toán mà-lại.  
子 の 教員  
(当然だ。数学担当教員の子供だもの!)

このように、(37)~(39)の lai は、皆「話者の予想に反する」を表すものである

が、それぞれニュアンスが違うようである。(38)における話者の予想というのは「彼は来ないだろう」や「そこまではミン君は駄目になるはずがないだろう」などということである。この場合、*lại* は *không ngờ* (思いもよらない) や *sao* (なぜ) や *chẳng (có) lẽ* (~するわけがない) のような語句と共起するのが普通である。

一方(39)では、話者は、「彼が数学が上手なのは、当然であり、取り上げて言う人は居ないはずだ」と予想したので、この予想に反するような発言をした相手に対して、「当然だよ」を意味する *mà lại* を終助詞として対応するものである。

(39)のBの返事は、以下のような発話が短絡したものだと考えられる。

(40) B: Nó là con của giáo-sư toán mà sao anh lại còn nói như-thế?  
彼 だ 子 の 教員 数学 なぜ 君 また 言う そのように  
(彼は数学担当教員の子供なんだから、改めて言うまでもないだろう。)

意味的には、(37)(38a, b)で、予想外の事柄に対する話者の驚き、いわば「対事的な」態度を表すのに対し、(38c)(39)では、「あなたがそのように行動している、あるいは、そのような発言や考え方をしているとは意外だった」といった驚き、いわば、「対人的な」態度を表すといえる。

統語・形態的には、(39)のような場合には、*lại* は、一つの単語として働く *mà lại* の一部になり、音声的にも、*li* と縮小されてしまうことがある。具体的には、*/lay/* が */li/* に縮小され、母音 */a/* と半母音 */y/* との組み合わせ */ay/* が母音 */i/* に狭められるのである。文法化がかなり進んだ証拠だと言える。

(41) Tổng-thống Bush mê Barney đến-mức ông gọi chú chó ba tuổi này là  
大統領 夢中だ ほど 彼 呼ぶ(個体名詞)犬3 歳 このと  
“câu con-trai mà tôi ao-uớc” (chả-là ông có hai cô con-gái sinh-đôi mà-li!)  
(個体名詞)息子(関係詞)私 望む なぜなら 彼 ある2(個体名詞)娘 双子 んだもの  
(ブッシュ大統領は、私の望んでいた息子だと呼ぶほど、バーニーという3歳に

なるこの犬に夢中だ。(彼には双子の娘しかいないんだもの!))

(<http://www.tuoitre.com.vn/Tianyon/Index.aspx?ArticleID=120434&ChannelID=16>)

なお, *gửi lại* (返送する) や *dánh lại* (殴り返す) の中の *lại* が「当初の方向とは逆だ」という事を表すとすれば(37)~(39)の中の *lại* は, 主観化して「話者の予想した方向とは逆だ」という事を表すと言える。この主観化の過程にきっかけを与えるのは「反復」の用法だと考えられる。特に, 次のような表現には, <反復> と <予想に反する> の2つの意義素が共存するものだと解釈される。

- (42) Nó viết rồi lại xoá, xoá rồi lại viết.  
書く それから 消す  
(彼は書いては消し, また消しては書いた。)

(37)→(38)→(39)の順に, 主観化の度合いが強くなっていくと考えられる。

Traugott (1989など) によると, 主観化とは, 簡単に言えば, 命題的意味から, テキストあるいは, 感情表出的意味への変化である。

Propositional > ((textual) > (expressive))

また, Traugott & Dasher (2002: 84) によると, 文法化には次のような特徴があるという。1) 特定の構文 (a specific construction); 2) 意味の希薄化 (bleaching); 3) 語用論的強化 (pragmatic strengthening); 4) 再解釈 (reanalysis); 5) 構文の固定化 (fixing of the construction); 6) 音韻的弱化 (phonological attrition)。

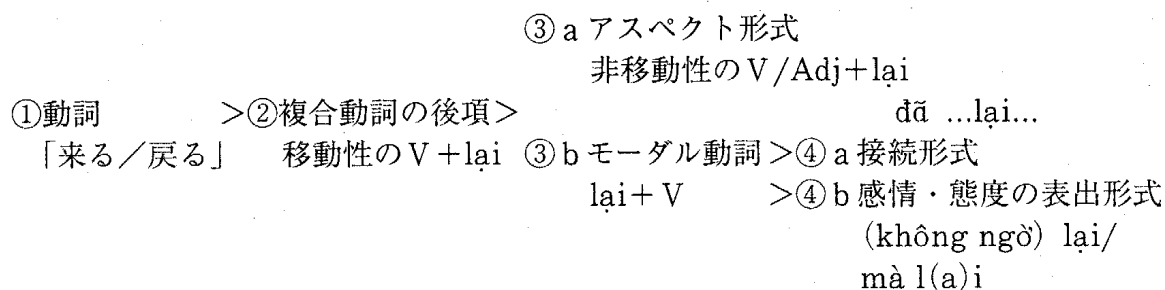
文末で, 1つの単語として使われる *mà lại* の中の *lại* は, 音韻的弱化を伴う感情表出的な表現の典型的な例だといえよう。

## 5. まとめと今後の展望

以上、様々な機能拡張の現象によって、*lai* の文法化のプロセスを考察した。述べたことをまとめると、次のようになる。

単独で使われる場合、「来る」を表すベトナム語の *lai* という動詞は、様々な統語的な環境によって、複合動詞の後項へ、そしてアスペクト形式、モーダル動詞の段階を経て、接続形式、感情・態度の表出形式へと機能拡張した。

*lai* 動詞の文法化の過程は、以下のように示すことができる。



方向を示す移動動詞で、*lai* (来る) の他に、*ra* (出る) や *đi* (行く) にも、文法化の現象が認められる<sup>3</sup>。例えば、“*học* (勉強する) *đi*.” (勉強しなさい) のように、ある動詞の後ろに使われると、一種の命令の意味を表すことがある。今後は、*đi* のような移動動詞の文法化の特徴も考察していきたい。

また、ベトナム語と同じく分析性が強く、連続の動詞構文 (serial verb construction) が認められる他の東南アジア諸語にも、移動動詞の文法化があるようである。例えば、大堀 (2002: 201-202) に指摘されているように、タイ語にも、「着く」動詞が、前置詞や取立て詞「まで」へと機能拡張して文法化していく現象を観察することができる。こういう状況で、通言語的に見て、本稿で考察したベトナム語の「来る」の文法化の特徴は、方向を示す移動動詞として、どこまでが普遍的なものかも、出来る限り、明らかにしてみたい。

---

3 *ra* の文法化に関しては、レー・バン・クー (2000: 299-318) を参照されたい。

## 引用資料

- (GH) : Khái Hưng & Nhật Linh, *Gánh hàng hoa*. 1962 (1934)  
(花) : 片山須美子訳『花を担いで』穂高書店. 1995. (アジア文化叢書 11)

## 参考文献

- Bybee, J., R. Perkins and W. Pagliuca. 1994. *The Evolution of Grammar: Tense, Aspect, and Modality in the Languages of the World*. The University of Chicago Press.
- Cao Xuân Hạo. 1991. *Tiếng Việt-Sơ thảo ngữ pháp chức năng (I)* (ベトナム語—機能文法の概説 (I)). KHXH.
- Cao Xuân Hạo. 2003 (3<sup>rd</sup>). *Tiếng Việt, Văn Việt, Người Việt* (越語, 越文, 越人). Nxb Trẻ.
- Đặng Chấn Liêu & Lê Khả Kế eds. 1987. *Vietnamese-English Dictionary*. Hà Nội: KHXH
- Hoàng Phê ed. 1995. *Từ điển tiếng Việt* (ベトナム語辞典). Nxb Đà Nẵng & TT Từ Điển Học
- Lê Văn Lý. 1972. *Sơ thảo ngữ pháp Việt Nam* (ベトナム語文法概説). SG: TT Học Liệu Bộ QGGD.
- Matsumoto Yo. 1998. Change in the Grammaticalization of Verbs into Postpositions in Japanese. In Otori, Toshio. (ed.) *Studies in Japanese Grammaticalization — Cognitive and Discourse Perspectives —*. Tokyo: Kuroshio Publishers.
- Nguyễn Anh Quê. 1988. *Hư từ trong tiếng Việt hiện đại* (現代ベトナム語の虚詞). HN: KHXH.
- Nguyễn Đình Hoà. 1997. *Vietnamese*. Amsterdam / Philadelphia: John Benjamins.
- Nguyễn Kim Thản. 1977. *Động từ trong tiếng Việt* (ベトナム語の動詞). HN: KHXH.
- Nguyễn Phú Phong. 1976. *Le syntagme verbal en vietnamien*. The Hague: Mouton.
- Panfilov, V. X. 1979. 'Các cấp thể và các chỉ tố tình thái thể trong tiếng Việt (ベトナム語におけるアスペクトのクラス及びモーダル・アスペクトの標識). *Ngôn Ngữ* (言語). No.2.
- Palmer, F. R.. 2001. *Mood and Modality* (Second edition). Cambridge University Press.
- Sweetser, Eve. 1990. *From etymology to pragmatics: Metaphorical and cultural aspects of semantic structure*. Cambridge / New York: Cambridge

- University Press. [澤田治美訳. 2001. 『認知意味論の展開 — 語源学から語用論まで』 研究者出版]
- Trần Thị Nhân. 2005. Ngữ pháp hoá các động từ trong tiếng Việt (ベトナム語における動詞の文法化). *Những vấn đề ngôn ngữ học-Kỷ yếu hội nghị khoa học 2003* (言語学の諸問題 — 2003年の学術シンポジウム論文集). Hà Nội: KHXH.
- Traugott, Elizabeth C. 1989. On the Rise of Epistemic Meanings in English: An Example of Subjectification in Semantic Change. *Language*. 65-1: 31-55.
- . 1995. Subjectification in grammaticalization. In Dieter Stein and Susan Wright (ed) *Subjectivity and Subjectivisation*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Traugott, Elizabeth C. & Richard B. Dasher (2002: 84). *Regularity in Semantic Change*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Trương Văn Chính & Nguyễn Hiến Lê. 1963. *Khảo luận về ngữ pháp Việt Nam* (ベトナム文法論究). Huế: Đại học Huế.
- Ủy Ban KHXH VN. 1983. *Ngữ pháp tiếng Việt* (ベトナム語の文法). Hà Nội: KHXH.
- Văn Tân, Nguyễn Văn Đạm. 1977. *Từ điển tiếng Việt* (ベトナム語辞典) 2<sup>nd</sup>. Hà Nội: KHXH.
- 大堀壽夫. 2002. 『認知言語学』. 東京大学出版会.
- クリスティン・ラマール [Christine Lamarre]. 2004. 「中国語における方向詞のカテゴリー化」, 『言語』 4 月号.
- 東南アジア諸言語研究会編. 2003. 『東南アジア大陸部諸言語の「行く・来る」』 慶應義塾大学言語文化研究所.
- 堀江 薫. 2004. 「談話と認知」 中村義芳久 (編) 『認知文法論Ⅱ』 大修館書店.
- 松本 曜. 1995. 「言語類型論 (Ⅱ): 文法化」. 森岡ハインツ・加藤泰彦 (編) 『海外言語学情報第 8 号』 大修館書店.
- 村上雄太郎 (レー・バン・クー) & Christine Lamarre. 2005. 「移動動詞の越・中対照研究: 直示方向のカテゴリー化と「着く」の文法化を中心に」, 日本言語学会『第131回大会予稿集』, pp.60-65
- レー・バン・クー [Lê Văn Cù] (村上雄太郎). 2000. 「「空間の移動」から「認識の移動」へ — ベトナム語の方向を示す移動動詞 “ra” の場合 —」. 青木三郎・竹沢幸一編 『空間表現と文法』. くろしお出版.